

●大谷石について

大谷石は栃木県宇都宮市大谷地区で、生産される緑色凝灰岩で古くから日常生活に用いられ、火に強いことから煮炊きをする、かまどをはじめ建物の土台石、敷石、土留め、蔵、倉庫などの積み石に使用される一方、火災から守るため、屋根石（石瓦）や、板蔵の貼り石として、外装、内装の建築用材ほか、様々な形で使用されてきました。

自然石として大谷石の魅力は柔らかくて 加工しやすく、熱を通しにくく耐久性に優れ、控えめな地色は素朴で温かみさえ感じさせる、独特の風合いを持った石です。

現在、山を所有し大谷石を切り出している業者は8件しかなく（加工所は多数ありますが）大変希少価値の高い石材となっています。

●石の特性

大谷石は軽石凝灰岩の一種で、非常に石質が柔らかく加工が容易であることを特性を持った石材となります。

その他、耐火性に優れる点や、他の石材に比べ石の重量が軽いなどの特性も持っております。

柔らかいという特性のうえに、欠けなどが生じやすい点も挙げられます。

大谷石をカッターで切り出した際に発生する振動により切り出し部分が欠けることがあります。

また、大谷石には気泡やミソと呼ばれる化石化された黒い空洞部がどの石の部分にも大きさは様々ですが必ず入っております。

ミソの部分が、切り出し部に入った場合、欠けが生じます。

以上のような原因で欠けた大谷石に関しましては、大変恐れ入りますが石が持つ特性による欠けになりますため、商品の保障外とさせていただきます。

ミソの大きさによって大谷石の等級が決まります。



荒目

茶色の部分（化石部）の大きさが500円玉が多数入る。

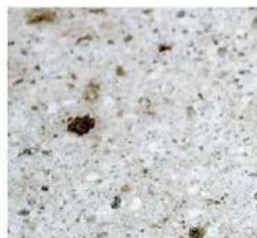
※積石五十石のみ



中目

茶色の部分（化石部）の大きさが荒目と細目の中間程。

※張り石・平板



中目 R (オオヤラブ塗装)

Rは変色及び風化の防止剤を片面塗装し酸化を防ぎ赤味をおさえた商品です。

※張り石・平板



細目

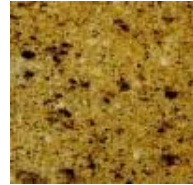
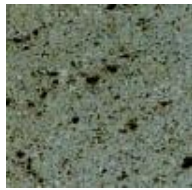
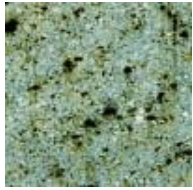
茶色の部分（化石部）の大きさが約1円～10円玉以内。

※積石五十石のみ

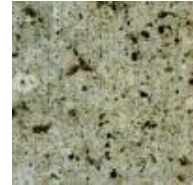
等級の見分け基準のミソの大きさはあくまで目安であって切り出し山によって異なります。

●色合いに関して

大谷石は採掘時青みを帯びた色をしております。
水分が蒸発し、乾燥するにつれ白っぽくなりやがて薄く茶褐色を帯びるようになります。
(変色の理由として、大谷石に鉄分を含むことが挙げられます。)
時には素朴に、時には優美な趣を表すこの色調は「枯れた色」と言われ
長年人々に愛され続けてきた大谷石特有の色です。
この「枯れた色」に変色するには、施工場所・環境の違いはありますが
多少時間が必要です。



(鉄分が多い石は赤みが強い)



大谷石は水分の蒸発にともない石色に変化いたします。(上記写真はイメージです。)

●オオヤラブ塗装

オオヤラブ塗装を施されたものは、変色及び風化の防止剤を片面塗装してあるため、酸化を防ぐ効果があります。

●大谷石施工例

壁に大谷石を使用しております。

